

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	03	アレルギー疾患等健康相談事業					
章	1	健康でおもいやりのあるまち					
大項目	01	心と体の健康づくり					
施策	01	生涯を通じた心と体の健康づくり					
事業内容							
目的	アレルギー疾患の早期発見を行い、ぜん息発症の未然防止を図ります。また、既にぜん息等の症状がある方については、早期に適切な治療指導を行い疾病予後の改善と生活の質の向上を図ります。						
対象・手段	乳幼児健診でスクリーニングした方及び電話予約した一般の15歳未満のぜん息等のアレルギー疾患児及びその保護者を対象に、各保健センター巡回で月1回、小児専門医等による問診・診察・住環境指導・栄養指導・保健指導を行います。また育児グループ等を対象に小児専門医等による集団指導を行います。そのほか15歳以上の方を対象に呼吸器健康相談を行います。						
成果(事業が意図する成果)							
アレルギーに関する正しい知識・情報を提供することで、ぜん息等の発症予防や早期対応ができ、当事者等の不安軽減につながります。また、ぜん息等アレルギー疾患は慢性疾患であり長期管理を要することが多いため、相談事業により、生活場面で実践できるよう具体的な自己管理能力(抗原回避等)が身につくとともに、納得して主治医とパートナーシップがとれるようになります。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
健康相談予約率		健康相談予約者数 / 定員 (450名)			(平成19年度) 年度に (100%) の水準達成		
大気汚染患者に占める相談者の割合		アレルギー相談者数(15歳未満) / 大気医療券認定者(15歳未満)			(平成19年度) 年度に (13.6%) の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業成果指標	目標値1	%	100.00	100.00	100.00	100.00	【目標値2】平成19年度の目標値13.6%については、計画策定当時の相談者数定員/大気汚染認定者見込数です。
	実績1	%	85.11	84.22	102.00	69.11	
	= /	%	85.11	84.22	102.00	69.11	
	目標値2	%	13.60	13.60	13.60	13.60	
	実績2	%	8.10	12.10	13.40	7.14	
	= /	%	59.56	88.97	98.53	52.50	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	ぜん息予防アレルギー相談(小児):実施回数12回、予約人数137名、相談実数117名 集団指導(小児):実施回数7回、予約人数266名、相談実数211名 電話相談:実施回数24回、相談実数0名 呼吸器健康相談(成人):実施回数6回、予約人数58名、相談実数44名						
平成19年度	ぜん息予防アレルギー相談(小児):実施回数12回、予約人数68名、相談実数58名 集団指導(小児):実施回数7回、予約202名、相談実数160名 呼吸器健康相談(成人):実施回数6回、予約人数41名、相談実数35名						

部名称		健康部		課名称		健康推進課		備考
		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度		
トータルコスト	事業費	千円	1,190	1,210	1,738	1,696		
	人件費	千円	5,003	5,003	4,968	4,956		
	事務費	千円	139	306	166	339		
	減価償却費等	千円	0	0	0	0		
	総計 = + + +	千円	6,332	6,519	6,872	6,991		
	受益者負担	千円	0	0	0	0		
	純計 = -	千円	6,332	6,519	6,872	6,991		
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00		
財源内訳	一般財源 = -	千円	5,004	5,004	4,969	4,957	特定財源： 環境保健事業助成金 独立行政法人環境 再生保全機構（旧特殊法人公 害健康被害補償予防協会）	
	特定財源		1,328	1,515	1,903	2,034		
	一般財源投入率 /	%	79.03	76.76	72.31	70.91		
職員	常勤職員	人	0.60	0.60	0.60	0.60		
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00		
事業に関する検討課題								
<p>ぜん息等の発症予防や早期治療を行うことの意義は大きく、さらなる周知が必要です。周知方法の改善やぜん息等アレルギー疾患患者に対する正しい情報提供を行うことが課題となっています。また、呼吸器健康相談（15歳以上の気管支ぜん息及び慢性閉塞性肺疾患患者）では勤労者にとっても利用しやすい事業となっているか否かの検討をする必要があります。</p>								
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	ぜん息予防アレルギー相談（集団指導）は実績が160人と、目標の91%でした。一方、同事業（個別相談）は実績が18年度より低下して、58人、48%でした。呼吸器相談は35人58%でした。					
	実施の成果	2	ぜん息予防アレルギー相談（個別相談）実績は、18年度実績を下回りました。20年度に向けて、その原因を把握する必要があると考えます。					
	効率性	2	呼吸器健康相談は、6回とも相談者が満足できる内容にすることができ、医師及び保健師の応援は不要でした。充実した内容の相談事業を、環境再生保全機構からの助成金の範囲内で実施でき、ほぼ効率的だといえます。					
	行政の関与	3	当事業は、自治体が行う健康被害予防事業の一つとして法律に基づき実施しています。さまざまな機会をとらえて、現在症状のない方も含めて幅広い対象者への普及啓発に区が取り組むことは妥当です。					
	妥当性	2	健康相談予約率を目標に設定したことは、早期治療や発症の未然防止につながるもので妥当です。身近な場所で気軽に専門的な相談を受けることができるので、手段・対象もほぼ適切です。					
	施策寄与度	2	過去3年間の実績はぜん息予防アレルギー相談（個別相談）は目標の76%、同（集団指導）は同86%、呼吸器相談は73%でした。身近なところで専門的な相談ができるという点で、健康づくりという目的達成に寄与しています。					
総合評価	<p>19年度のぜん息アレルギー相談（個別相談）の実績は目標を下回るものでした。しかしながら、相談者の数、ぜん息の発症予防や早期治療に対する一定の効果等を考慮すると、概ね計画通りであると評価できます。</p> <p>また、過去3年間の評価を「B」とするのは、ぜんそくアレルギー相談（集団相談）を除いた、他の相談・指導の過去2年間の実績が19年度実績を上回っており、一定の成果があったことによるものです。</p>							B
								過年度評価
改革方針								18年度 D
								17年度 D
							16年度 B	
							15年度	
							方向性	
<p>この事業は、20年度から経常事業「アレルギー疾患等健康相談事業」に移行します。なお、相談者の定員の確保にむけて、以下の事項を検討します。</p> <p>1 周知方法の改善</p> <p>2 医療機関が多く存在する区における事務内容のあり方（体調の変化により、直接受診が予想される）</p> <p>3 子ども医療費助成制度実施による影響</p> <p>4 呼吸器健康相談が、勤労者にとって利用しやすい事業か否か</p>							1	
							現状のまま継続	